



そお小学校



二次元コードから
閲覧可能です。

地域住民と教職員の 白熱した意見の交流が… !!

文部科学省は、第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理(令和6年6月)の中で、次のように述べています。「国民の生涯学習を推進するための基盤となるのは、学校教育である。子供は学ぶことと自己の将来のつながりを見通しながら、変化の激しい複雑な社会を生き抜くための資質・能力を磨き、自分らしい生き方を実現していくことを、社会として支えなければならない。その際、教員という立場を含め、学校現場に民間からの人材が参画することや、学校現場と企業との人材交流等により、それぞれの人材が得た経験が、教育に活かされるような仕組みの導入も必要である。」

本号では、教職員と地域住民が融合したユニット型研修を実施している「そお小学校」を紹介します。

算数(たし算とひき算の筆算)の授業参観と グループ協議



地域の方とご一緒するユニット型研修も回を重ね、本日も6名参加いただきました。教職員とは違う発想でご意見をいただいたり、教職員や子供の良さを見つけていただいたり、有意義な研修会になってきました。有難いです。 <校長>



一人で学習するのは、大変だと思うけど、よく頑張っていると思います。タブレットの使い方もよく知っていて素晴らしい。 <学校運営協議会(学運協)委員>



僕は、タブレットを使って数え棒を動かすと、説明しやすくなるな。 <小学生>

タブレットの教材での操作がいいのか、実物の数え棒を使って動かしながら理解するのがいいのか。子供に選ばせたら意欲的に学ぶのではないのでしょうか。 <学運協委員>

子供たちが、自分なりの考えをもって、友達に話せるように工夫しました。先生方や地域の方がたくさん意見を下さり有難かったです。 <授業者>

一人学びの後、ペアをつくって説明し合うと、より考えが深まると思います。 <教員>

今日は子供たちが4人で学習を進めていましたが、人数が多くなった場合、一人一人に先生の支援が出来るのか?という疑問が残りました。 <学運協委員>



地域の方や先生方に、一人一人が自分で考えて問題を解こうとしている、とほめてもらい嬉しかったです。 <小学生>

正直なところ、何をどう見たらいいのかわからない自分がいました。けれど、丸つけに行ったりして接することもあり、成長したなと思い、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。 <学運協委員>

複式・少人数学級の強みの一つに、自分の思いや考えを納得するまで交流できることがあります。子供ばかりでなく、地域住民と教職員が、授業の中で子供を成長させる方法を真剣に議論していました。「子供一人一人は、かけがいのない大切な存在である。」という共通の思いを持っていると強く感じました。

